

NGO-労働組合同国際協働フォーラム 2015 年度活動報告

(2015 年 9 月～2016 年 8 月)

はじめに

本フォーラムは、NGO と労働組合間の相互理解と協働事業を促進することにより、「持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals (SDGs)」が掲げている、貧困、人権、平和、環境、ディーセント・ワークの促進、不平等・格差是正、持続可能な生産・消費などの地球規模課題の解決に寄与し、公正ですべての人々の可能性を開くことができるグローバル社会の形成と市民社会の強化を目的とし、2004 年 9 月に発足した。

設立 12 年度目にあたる 2015 年度は、NGO18 団体（うち参加 NGO1 団体）及び労働組合 13 団体が参加して活動を行った。そのうち NGO8 団体、労働組合 8 団体により構成される「合同企画委員会」の運営のもとで、グループ活動とタスクチーム活動を継続した。

本活動報告では、「フォーラム全体の活動」「事業別タスクチーム活動」「課題別グループ活動」「事務局体制」「フォーラム会員団体一覧」について報告する。

I. フォーラム全体の活動

1. 合同企画委員会

第 72 回～第 75 回まで計 4 回（10/28、2/19、4/13、8/23 開催）の合同企画委員会を開催し、本フォーラムの活動方針、活動計画・予算、活動報告・決算等についての協議と承認を行った。

2. 全体会の開催

参加 NGO も含む全メンバーを対象とした全体会を 2015 年 10 月 28 日に、合同企画委員会と兼ねるかたちで開催した。

3. 広報 メールマガジン発行

昨年度に引き続き、メールマガジンの発行を月 1 回行った。フォーラムとしての取組みを定期的に報告した他、フォーラムメンバーである各団体のイベントやキャンペーン情報の掲載など、情報発信の場として活用することができた。下記ホームページに、メールマガジンの登録フォームを設置している。2016 年 8 月末時点の登録者数は 273 名

- ・ 連合：開発協力活動（NGO との協働）のページ
<http://www.jtuc-rengo.or.jp/kokusai/kaihatsukyouryoku/index.html>
- ・ JANIC：NGO-労働組合同国際協働フォーラムのページ
<http://www.janic.org/activ/ngounderstand/unionforum/index.php>

II. 事業別タスクチームの活動

1. シンポジウム開催タスクチーム

1) 開催の背景

昨年引き続き、メンバー団体のみならず、メンバー以外の NGO や労働組合、企業、政府、自治体、一般市民をも対象とした、「NGO・労組協働フォーラム」の趣旨にかなうシンポジウムを開催する。シンポジウムのテーマ「SDGs」についての理解を深めるとともに、本フォーラムの活動を効果的に広報し、出会いの場を提供することで、新たなメンバーの獲得を目指す。

2) 開催目標

- ① SDGs 達成に向けた NGO と労組の協働を促進する。
- ② 本フォーラムの活動を効果的に広報し、新たなメンバーの獲得につなげる。

3) タスクチームについて

- ・ 各課題別グループと事務局から NGO と労働組合それぞれメンバーを選出してタスクチームを形成した。詳細メンバーは以下の通り：
IUF-JCC／中田、基幹労連／吉田、日教組／狩野、連合／鈴木・佐々木、アフリカ日本協議会／稲場、ACE／山下、ジョイセフ／佐藤、JANIC／富野・井端
- ・ 会合回数：6回（2015年12月～2016年8月）

4) 活動実績

- ・ シンポジウム名：「持続可能な開発目標（SDGs）を達成するために—NGO と労働組合のパートナーシップ—」
- ・ 開催日時：2016年7月25日（月） 14時00分～16時30分（開場13時30分）
- ・ 会場：連合会館 2F 大会議室（東京都千代田区神田駿河台 3-2-11）
- ・ 主催：NGO・労組国際協働フォーラム
- ・ 実績：参加者数：116名（関係者含む）、NGO 活動紹介デスク参加団体 7 団体
- ・ プログラム
 - ◇ 開会挨拶：吉田昌哉（日本労働組合総連合会 総合国際局長）
 - ◇ 基調講演：『SDGs をマルチステークホルダーで達成するために』
若林秀樹氏（(公社) アムネスティ・インターナショナル日本 事務局長/ (一社) グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 理事）
 - ◇ コメンテーターより発言：
山口智彦氏（株式会社クレアン コンサルタント）
古谷由紀子氏（サステナビリティ消費者会議 代表/ (公社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 常任顧問）
 - ◇ 「SDGs 達成に向けた労働組合の取り組み」：
鈴木宏二（日本労働組合総連合会総合国際局 国際局長）
 - ◇ パネルディスカッション：「SDGs の効果的な実施に向けて～各イシューにおける海外・国内での取り組み」
モデレーター：今田克司氏（(一財) CSO ネットワーク 代表理事/ (特活) 日本 NPO センター 常務理事）
パネリスト：
鈴木宏二（日本労働組合総連合会総合国際局 国際局長）
定松栄一（(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) 事務局長）

岩附由香氏 ((特活) ACE 代表)

稲場雅紀氏 ((特活) アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター、「動く→動かす」事務局長)

石井澄江氏 ((公財) ジョイセフ 代表理事)

- ・ フォーラムへの参加の呼びかけ、閉会挨拶：
富野岳士 (特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC) 事務局次長)

5) 成果と課題

本シンポジウムを通じて、SDGs 時代の新たな NGO と労組の連携のあり方について議論が深まった。SDGs 時代は、労組が NGO の活動に参加したり支援したりということに加えて、企業や政府などの他のステークホルダーを SDGs の達成に向けて動かしていく役割も大きいということが確認された。

参加者からのアンケートでは、シンポジウム全体を通して約 85%が「有意義だった」と回答、特にパネルディスカッションについては 90%以上が「有意義だった」と回答するなど評価が高かった。シンポジウムへの参加動機として最も多かったのは SDGs への関心であり、各プログラムを通して SDGs の理解が深まったという声を聞くことが出来た一方で、さらなる連携や具体的な取り組みに関して意見が寄せられた。

開催目標①は概ね達成することができたが、②の新たなメンバー獲得に関して、アンケートにおいて NGO と労組それぞれ 2 団体ずつがフォーラム参加に興味を示しており、事務局中心でフォローしていく必要がある。タスクでの企画・実施およびグループでの事例発表の企画・実施は、内容面の充実、効率性、メンバー活動として有益と考えられる。シンポジウムのテーマ設定とメンバー募集をいかに併せて達成していくかが今後の課題といえる。



III. 課題別グループ活動

1. 児童労働グループ

1) グループの基本目標

児童労働は働く私たちがまず考えなければならない問題ということから、労働組合と NGO が協力することにより、問題解決に向かうことを基本目標とする。また児童労働についてのもうひとつのネットワークである児童労働ネットワーク (CL-Net) とも協力体制で臨んでいく。

2) 2015 年度の目標

昨年度は CL-Net との協働でキャンペーン・フライヤー「ストップ！児童労働キャンペーン 2014」の制作に協力、キャンペーンの一環として実施された署名活動やレッドカードアクションにも、児童

労働グループに参加している労働組合が協力するなど、児童労働やキャンペーンの広報活動に協力することができた。

この連携を活かし、2015年度も CL-Net との協力体制を維持するほか、児童労働を伝えるツールを整備し、労働組合員や一般市民に対して、児童労働の周知を図る活動を労働組合と NGO の協働で実施していく。

3) 活動実績

① 組織運営・事務局

a. 参加組織

・労働組合 7 組織

- ✓ JAC
- ✓ IUF-JCC
- ✓ 自動車総連
- ✓ JAM、情報労連
- ✓ 日教組
- ✓ UA ゼンセン

・NGO 5 組織

- ✓ アムネスティ・インターナショナル日本
- ✓ ACE<事務局>
- ✓ 国際労働財団
- ✓ BHN テレコム支援協議会
- ✓ FTCJ

b. グループ会議

以下の日程で、6 回開催した。

2015 年 11 月 5 日、2016 年 1 月 26 日、3 月 2 日、4 月 14 日、5 月 11 日、7 月 27 日

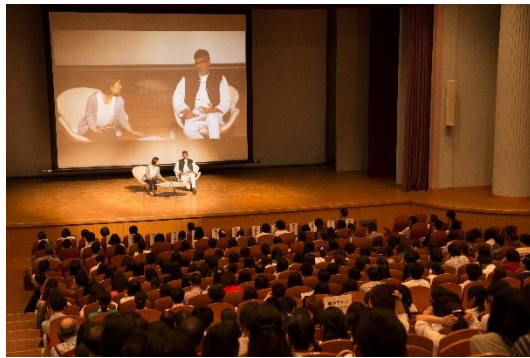
② 活動

a. イベント主催・出展

- ・ 連合「3.8 国際女性デー中央集会」啓発カフェ（2016 年 3 月 8 日）
国際女性デー中央集会会場での啓発カフェを母子保健グループとの共催で実施した。パネル展示、グループ活動紹介ちらしの配布と児童労働についての説明を行った。115 名が来場。
- ・ 第 87 回メーデー中央大会（2016 年 4 月 29 日）
メーデー中央大会に出展し、写真パネルの展示とボディペインティング、「ストップ！児童労働キャンペーン 2016」のレッドカードアクションを行った。
レッドカードアクションでは、来場者にタペストリーの前で、レッドカードとメッセージいりボードを掲げ、写真を撮影し、その場で写真をプリントして持ち帰ってもらえるようにした。約 50 枚を撮影し、のべ 95 名が参加した。



- ・ カイラシュ・サティヤルティ氏来日記念公開シンポジウム（2016年5月14日）
NPO 法人 ACE、児童労働ネットワーク（CL-Net）、NGO・労働組合国際協働フォーラム 児童労働グループの三者共催で、2014年度ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤルティ氏来日記念公開シンポジウムを開催した。当日は約 650 名が来場し、NHK や日本テレビのニュースのほか、新聞等でも取り上げられた。



- ・ 労働組合定期大会
UA ゼンセン定期大会（2015年9月9日-10日／ACE）、JAM 定期大会（2016年8月25日／アムネスティ、ACE）に出展し、バナーの展示と児童労働についての説明、フェアトレード商品等の販売を行った。

b. 展示ツールを活用した啓発

展示用バナーや写真パネル等を活用し、労働組合定期大会、メーカー中央集会、国際女性デーでの啓発カフェ、そして、カイラシュ氏来日記念シンポジウム等で、児童労働の現状や解決のために私たちにできることを伝えた。

c. CL-Net と共同事業

「ストップ！児童労働キャンペーン 2016」の広報協力を行った。広報物としては、キャンペーンフライヤー（16,500部）とウェブサイトが制作され、キャンペーンの周知とアクションへの参加呼びかけに活用された。キャンペーンの一環で行われたレッドカードアクションには、児童労働グループ参加労働組合などからも多くの参加があり、キャンペーンの広がりにも協力することができた。

【キャンペーンの実績】

- ・ キャンペーン参加団体：35 団体、1 企業、1 個人
- ・ レッドカード+1 アクション：写真 903 枚、参加人数 9,402 人

- ・ 賛同イベント開催数：9件

4) 成果と課題

- ・ 展示用タペストリーや活動紹介パネル等の展示ツールが整いつつあることで、主催・出展イベントの機会を有効活用し、児童労働の問題を知らせ、フォーラムや当グループの取り組みを伝えることができた。特に、「ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤルティ氏来日記念公開シンポジウム」においては、来場者、さらに各種メディアを通じて、多くの人に児童労働の現状を伝え、フォーラムの活動を広めることができた。
- ・ 計画策定時点では未確定だった、カイラシュ・サティヤルティ氏の招へいが決定したこともあり、当初予定していた展示用タペストリーの制作と映像ツールのリニューアルについては、完成に至らなかった。次年度に継続して取り組んでいく。
- ・ 今後も、労働組合の大会等のイベントでの展示や写真展の実施などを通じて、児童労働を知る機会を増やすとともに、「児童労働は私たちが取り組むべき問題である」という認識が広がり、各組織での取り組みが増えるよう、働きかけを続けていく。
さらに、児童労働の問題を知った人が、問題解決に向けたアクションを起こすよう、促していきたい。

1. HIV/エイズ等感染症グループ

1) 基本目標

労働組合員や一般市民に対して、国内外の HIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う労働組合ネットワークや NGO を紹介し、その活動への支援参画を促す。

2) 2015年度の目標

- ・ HIV/エイズに関する問題や課題について、一般市民・労働者への普及と啓発に貢献する。
- ・ グループ参加団体が、HIV/エイズやその他感染症に取り組む関係組織との協力関係を強化する。
- ・ グループ参加団体がより一層 HIV/エイズ問題に関する知識を深めるため、グループ参加団体個々の持つ知見を共有し、より効果的に啓発活動を行えるよう研鑽に努める。
- ・ グループで作成した啓発プログラムメニューを使用した、ワークショップや勉強会を、積極的に実施する。

3) 活動実績

① 組織運営

a. 参加組織・事務局

- ・ 労働組合3組織
 - ✓ IUF-JCC <グループ事務局>
 - ✓ インダストリオールJAF
 - ✓ BWI-JAC (実質参加なし)
- ・ NGO5組織
 - ✓ シェア
 - ✓ AJFアフリカ日本協議会
 - ✓ 国際連帯税フォーラム
 - ✓ AAR Japan 難民を助ける会 (年度途中グループ活動脱退)

- ✓ PLAS（年度途中グループ活動脱退）
- ✓ LBIリトル・ビーズ・インターナショナル（実質参加なし）

b. グループ会議

グループ会議は以下の日程で9回開催した他、メールベースでの打合せを活用した。

2015年12月15日、2016年1月8日、2月2日、3月17日、4月11日、6月9日、6月29日、7月29日、8月4日

② 活動

以下、HIV/AIDS予防啓発イベントについて、主催、共催、協力および参加した。

a. <展示バナー作成>

- ◆ グループの活動をアピールするため、展示用のバナーを2点作成した。

b. <マッサージ&トークイベント>

- ◆ 実施日：2015年9月6日
- ◆ 場所：英信寺（台東区入谷）
- ◆ 参加者：18名
- ◆ 内容：薬草やマッサージなどの伝統医療を活用したタイでのヘルスケアの体験学習と、NGOがタイ東北部で実施している当事者主体のエイズ支援、現地自立支援を学ぶ国際協力トークを合わせたワークショップを開催。第1部でタイ古式マッサージを学び、第2部ではタイ東北部で実施している当事者主体のエイズ支援、現地自立支援についてのトークを行った。
- ◆ 共催：シェア、アーユス仏教国際協力ネットワーク



c. <連合定期大会展示>

- ◆ 実施日：2015年10月6-7日
- ◆ 場所：東京国際フォーラム（有楽町）
- ◆ 連合定期大会来場者向けの展示ブースに、グループの活動紹介を出展。

d. <レッドリボン・ライブ>

- ◆ 実施日：2015年11月27日
- ◆ 場所：品川ステラボール（品川）
- ◆ 内容：厚労省主催の、HIV/エイズの正しい情報を発信するライブ「RED RIBBON LIVE 2015」にグループとして来場。実際にHIVに感染している方の話を交えての分かりやすいエイズの基礎知識の紹介や、有名歌手やタレントによる歌やコントを通してのエイズ関連のメッセージなど、一般の方も共感しやすいイベント。

e. <ミュージカルイベント>

- ◆ 実施日：2016年1月17日
- ◆ 場所：五反田文化センター（五反田）
- ◆ 内容：ホットジェネレーション と、NGOシェアが主催するミュージカルイベントに協力した。劇場ホワイエに、専用ブースを設け、レッドリボン活動に対する啓蒙活動を行った。

日本に滞在する様々な国の外国人の多くは、言葉の壁や高額な医療費のため医療機関へのアクセスが困難な状況にある。エイズ予防啓発、結核療養支援など、NGOシェアが取り組む在日外国人の健康プロジェクトの実話を基に、ホットジェネレーションが、ミュージカルにのせて、勇気と希望、命に国境は無いことを伝えた。観劇に訪れた多くの人が、ミュージカルを楽しみ、また問題の根幹や自分たちにできることを深く考える機会となった。



f. <LGBT語り&のど自慢>

- ◆ 実施日：2016年3月13日
- ◆ 場所：新宿2丁目 ゲイバー九州男
- ◆ 内容：LGBT関連シンポジウムの企画立案にあたり、LGBT当事者や支援者が多く集まるイベントにグループとして参加し、協力者とのネットワークを構築した。

g. <メーデー中央大会>

- ◆ 実施日：2016年4月29日
- ◆ 場所：代々木公園
- ◆ 来場者：約200人
- ◆ 内容：ポップコーン配布を通して集客を狙い、HIV関連のクイズ等を通じて基礎知識を紹介するなどして、一般の組合員や市民に対する啓発活動を行った。

h. <公開シンポジウム「職場とLGBT」>

- ◆ 実施日：2016年8月4日
- ◆ 場所：連合会館（御茶ノ水）
- ◆ 参加者：約90名
- ◆ 内容：HIV感染リスクと関連が高いと言われる、性的マイノリティーLGBTについて、基礎知識や職場での課題について、当事者や専門家、先進企業による講演やパネルディスカッションを通して学ぶ機会を提供した。満席以上の来場があり、関心の高さが伺われた。また参加者アンケートでは概ね高い評価を頂いた。

4) 成果と課題

HIV/エイズや関連する背景にある性的マイノリティーの課題や、当事者の苦悩、偏見や差別等に関して、一般市民・労働組合員の方の問題意識を高め、取り組みを始める機会を提供することができた。メーデーにおいては、必ずしも課題に対する認知や関心を持っていない対象に対しても、物販等を切掛けに展示へ誘導することで、HIV/エイズの課題を伝える機会を拡大する事ができた。

イベントの共催や協力を通して、HIV/エイズに取り組む諸団体とのネットワークを拡大、強化することができた。

展示ツールを作成し、イベント等でのアピール力を強化した。

職場への出張ワークショップの依頼を取れず、機会が得られなかったことは残念であった。課題認識の向上を、実際の職場等で取り組みの展開に如何につなげて貰うかが、今後の課題と捉えている。

3. 母子保健グループ

1) グループの基本目標

- ① 労働組合と NGO が協力し、国際的な母子保健の課題について継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう。
- ② 妊産婦保健と乳幼児保健の実質的な改善につながる様、実現可能なアクションの参画を拡大化させる。

2) 2015 年度目標

2000 年に採択された「国連ミレニアム宣言」などを基に、策定された「国連ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals : MDGs)」は国際社会の支援を必要とする課題に対し、2015 年までに達成すべき目標として掲げられていました。2015 年 7 月に「国連ミレニアム開発目標報告 2015 (MDGs 達成に対する最終評価)」が発表されましたが、各分野においては一定の成果が見られましたが、「目標 5 : 妊産婦の健康状態改善」に関しては、1990 年の妊産婦死亡率に対し 75% 低減する目標に対し、現時点で 45% の低減にとどまっています。特に、サハラ以南のアフリカ、南アジアで達成が遅れ、目標の達成が困難であり、引き続き課題が大きいとの評価でした。私たち母子保健グループでは、この現状をより多くの市民、組合員に本国際課題に対する関心を一層深め、解決にむけての取り組みに参画してもらうことを目標とし以下の活動を進めていくこととします。

- ① 途上国における妊産婦保健の現状や課題について、多くの市民、労働組合員に発信していく。
- ② 上記のための具体的な方法として、各種会議やイベント等に併せて、参加型の学習会やセミナーの実施、ブース出店、パンフレット配布などの啓発活動を実施し、更に実現可能なアクションに繋がるよう取り組む。
- ③ 連合構成組織内の認識を拡げるため、パンフレット、機関紙、ホームページなどを活用する。
- ④ 他の NGO や労働組合に、グループ活動への参画を呼びかけ、活動拡大を図る。

3) 活動実績

① 組織運営

a. 参加組織・事務局

- ・ 労働組合 3 組織
 - ✓ 国公関連労働組合連合会 (国公連合)
 - ✓ 日本基幹産業労働組合連合会 (基幹労連)
 - ✓ 全日本電機・電子・情報産業労働組合連合会電機連合 (電機連合)
- ・ NGO 2 組織
 - ✓ 公益財団法人ジョイセフ<事務局>
 - ✓ 特定非営利活動法人 HANDS
 - ✓ 公益財団法人 PHD 協会 (参加 NGO、オブザーバー)

※但し、PHD 協会は、神戸が本拠地と遠いため、残念ながら 1 度も参加はできませんでした。

b. グループ会議開催

- ・ 1/20(水)16 時～ 今後の活動の確認 場所：電機連合
 - ・ 4/5(火)13 時～ メーデーについて・シンポジウムについてなど 場所：電機連合
 - ・ 5/25(水)16 時～ シンポジウムについてなど 場所：電機連合
 - ・ 8/9(火)16 時～ 活動計画と予算、活動報告と決算ほか 場所：電機連合
- ※上記会合以外はメールにて調整業務を実施
※シンポジウムタスク会議に、基幹労連・吉田、ジョイセフ・佐藤 参加

② 活動

a. イベント参加活動

NGO 労組国際協働フォーラムに参画している労働組合の各種機関会議やその他外部イベントなどの機会を利用し、母子保健グループが啓発活動として取組んでいる開発途上の妊産婦保健や女性が置かれている状況や課題を紹介するためのパネル展示やリーフレットの配付やチャリティアイテムの頒布などを行った。

- ・ 9/3(木) 基幹労連主催定期大会 (広島)
- ・ 9/9(水)～9/10(木) UA ゼンセン主催定期大会 (広島)
- ・ 10/6(火)～10/7(水) 連合定期大会
- ・ 10/23(金) 連合主催中央女性集会
- ・ 1/25(月) 国公連合主催中央委員会
- ・ 1/28(木)～1/29(金) 電機連合主催中央委員会
- ・ 3/8(火) 連合主催国際女性デー中央集会・カフェ開催
- ・ 4/29(金・祝) 連合主催中央メーデー
- ・ 7/4(月)～7/5(火) 電機連合主催定期大会
- ・ 7/25(月) NGO-労働組合国際協働フォーラム・シンポジウム

b. 外部イベントでの展示活動を通じた一般市民への広報活動

- ・ 10/3(土)～10/4(日) 「グローバルフェスタ 2015」
- ・ 11/13(金)～11/16(月) 文京区主催「カラーリボンフェスタ」
- ・ 5/2(月)～7/8(金) 「文京区総合体育館ロビー展示」

4) 成果と課題

労働組合の定期大会、中央委員会および連合主催の女性集会でのパネル展示やチラシ・リーフレットの配布などをきっかけに、参加者より母子保健グループやジョイセフの活動内容についての問合せが寄せられるなど、組合員から関心を示してもらえたことから、母子保健改善に関する啓発に一定の効果があったと評価できる。また外部イベントでの展示などを通じて、NGO-労働組合国際協働フォーラムの広報活動を行うことができた。イベントでは大学生のボランティア参加者に、本フォーラムの意味・意義や母子保健の重要性について学んでもらえたことも有意義であった。

しかしながら、メンバーが同時に複数の業務を抱えるなど日常的に多忙であったため、あらたな活動に取り組むことができず、また内部会議も十分にもてなかつたことは大きな課題として残った。

Ⅲ. 事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会（連合）、NGO側事務局として（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）が共同で事務局を担った。

Ⅳ. フォーラム会員団体一覧（2016年8月31日現在）

次頁は、フォーラムの会員団体一覧である。企画委員の担当団体、及び各グループ活動への参加団体に○印をつけた（次頁）。

■労組側(13組織)			連絡窓口			
NO	合同企画 委員(計8)	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS 等感染症 グループ	母子保健 グループ	シンポジ ウム開催 タスク
1		インダストリアル日本化学エネルギー 労働組合協議会(インダストリアル・JAF)		○		
2	○	基幹労連			○	
		基幹労連				○
3		国際建設林業労働組合連盟 BWI日本加盟組合協議会(JAC)	○	○		
4	○	国際食品労連日本加盟労組連絡協議会 (IUF-JCC)	○	○		○
5	○	国公連合			○	
6		自治労				
7	○	自動車総連	○			
8	○	JAM	○			
		JAM				
9		情報産業労働組合連合会	○			
		情報産業労働組合連合会				
10	○	電機連合			○	
		電機連合				
11		日本教職員組合(日教組)	○			
		日本教職員組合(日教組)				○
12	○	日本労働組合総連合会(連合)【事務局】				○
		日本労働組合総連合会(連合)【事務局】				○
13	○	UAゼンセン	○			

■NGO側(18組織)			連絡窓口			
NO	合同企画 委員(計8)	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS 等感染症 グループ	母子保健 グループ	シンポジ ウム開催 タスク
1	○	(特活)アフリカ日本協議会		○		○
		(特活)アフリカ日本協議会				
2	○	(公社)アムネスティ・インターナショナル 日本	○			
3	○	(特活)ACE	○			○
4	○	(特活)エイズ孤児支援NGO・PLAS				
5		(特活)エファジャパン				
		(特活)エファジャパン				
6		グローバル連帯税フォーラム		○		
	○	グローバル連帯税フォーラム				
7	○	(特活)国際協力NGOセンター【事務局】				○
		(特活)国際協力NGOセンター【事務局】				
		(特活)国際協力NGOセンター【事務局】				
8	○	(公財)国際労働財団	○			
		(公財)国際労働財団				
9		(特活)シェア＝国際保健協力市民の会		○		
10		(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会				
11		(公社)シャンティ国際ボランティア会				
12	○	(公財)ジョイセフ			○	○
13		(特活)難民を助ける会				
14		(特活)HANDS			○	
15		(特活)BHNテレコム支援協議会	○			
16		(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	○			
17		(特活)Little Bees International		○		
18	参加NGO	(公財)PHD協会			○	